

# 郷土の文化遺産を後世に 法海寺平成修復事業

修復本部長

早川 幸生

法海寺の仁王門と仁王尊像の修復基金勧進に關しましては、多数の方々から貴重な浄財をご喜捨いただき、誠にありがとうございます。誠にありがとうございます。おかげをもちまして、修復工事も順調に進行しており、今年三月には落慶法要を迎える運びとなっております。式典の詳細は後日ご案内致しますので、地域住民の皆様にも多数ご列席願えれば幸甚に存じます。

法海寺の創建は天智七（西暦六六八）年とされ、千三百年余の歴史を持つ知多半島屈指の古刹として、わが郷土の誇りです。創建当時の隆盛は古文書の記述からのみ窺い知るにすぎませんが、時代と共に衰頽・荒廢のままに任せることなく、祖先が懸命に守り通してきたからこそ現代に引き継がれていることを忘れてはなりません。

仁王門と仁王尊像の造立は年代が大きく下って寛文六（一六六六年）と伝えられて

いましたが、今回の修復解体によってそれを裏付ける記録が見つかっております。三〇余年の長きに渡って数え切れない風雪を凌いで厳然と存在する構造物を前にしたとき、心から畏敬の念を抱かずにはおられません。

しかし、あまり注目されることもなく長年挨を被り、掃き清める人もないまま、放置してきたことを私たちは大いに反省する必要があります。社会環境の目まぐるしい変貌

◇修復事業概要を  
左表に示します

修復対象	仁王門 一棟 仁王尊像 二体
工事内容	全解体再組立（古材流用）
修復担当	仁王門 株式会社 魚津社寺工務店
	技術顧問 博物館明治村館長 飯田喜四郎氏 愛知工業大学教授 杉野 丞氏 名古屋工業大学教授 河田 克博氏
	仁王尊像 江場佛像彫刻所 仏師 江場琳鬘氏 江端琳觀氏
修復費用	法海寺仁王門・仁王尊像平成修復基金 総事業予算 73,500,000円
工事期間	平成21年4月～平成22年2月
落慶法要	平成22年3月8日（予定）

に振り回され、古いもの・伝統のたぐいがいつしか忘れられ、失ったものの大切さができない、そんな危機感を募らせている読者もきつとおられることでしょう。

幸いにして、炯眼の持ち主が寺関係者におられたことから、先人が残した貴重な文化遺産としての価値が認められ、平成二十年十二月十五日に仁王門が知多市の文化財に指定されました。

あとに続く世代が何百年か未来まで郷土の文化財を守り続けてくれることを固く信じて、平成の大修復に多大なるご支援をいただいた皆様と共にあたたかく見守って行きたいと思えます。